

# 特集 地域で家庭教育を支援する

## 事例1 現代的な課題をテーマに親の学習機会を提供する

インターネットや携帯電話・スマートフォン等が普及した今、暮らしは便利で豊かになりました。しかし、この情報化の進展の中で子供たちがトラブルに巻き込まれたり、事件に遭うことが少なくありません。インターネットを介したコミュニケーションに潜む危険性や、生活習慣・学習に悪い影響を与える等の心配もあり、通信機器を所有する割合が急増する中高生の保護者の悩みが増えています。今回は、これらの現代的な課題に取り組んだ世田谷区教育委員会、世田谷区立玉川中学校家庭教育学級の事例を紹介します。

### 世田谷区教育委員会の家庭教育支援の取組 《～家庭教育学級で現代的な課題を学習～》 (世田谷区教育委員会事務局)

#### ■ 「第2次世田谷区教育ビジョン」の策定

世田谷区教育委員会では、平成26年度を初年度とする、今後10年間の教育の方向を示した「第2次世田谷区教育ビジョン」を策定しました。このビジョンでは、学校・家庭・地域が連携・協働した教育をより一層推進していくとともに、一人一人の多様な個性や能力を伸ばし、変化の激しい時代を生きる基盤となる「豊かな知力」「豊かな人間性」「健やかな身体・たくましい心」をバランスよく培い、生涯を通じて学び、その成果を地域社会に活かしていくことや、学校での教育活動等を通じて、子供たちの自尊感情や自己肯定感を高めていくことを重視しています。

家庭教育への支援では、この教育ビジョンの「第1期行動計画」の4年間のリーディング事業の一つとして、「親子の育ちを支える家庭教育への支援」を掲げています。福祉、保健、医療など関連する領域と連携しながら、親の交流と学びあう仲間づくりの機会を充実していく取組を進めます。

#### ■ 家庭教育学級の取組

教育委員会が主催している家庭教育学級は、全ての区立幼稚園9園、区立小中学校93校のPTAに委託する形で実施しています。各校PTAの家庭教育学級の企画運営に当たっては、保護者の立場とニーズに基づいて、PTAの主體的な取組ができるように、文化厚生委員会や家庭教育学級委員会などの組織が担当して進めています。教育委員会としては、PTA担当者の情報交換会や事例発表会などの機会を充実し、各校の多様な取組に関する情報の共有化を図ることを大事にしています。また、運営に当たって実務的な段取りや内容に関すること、楽しみながら学びあう進め方などに関する相談にも丁寧に応じながら支援を行っています。

#### ■ 新たな取組としての共通テーマの設定

教育委員会と学校と家庭が課題を共有して、これまで以上に連携して積極的な取り組みを促すために、家庭教育の課題に関する共通テーマを設定しました。

今年度の共通テーマは、①子供のネット依存について ②子供の体力向上、健康について ③いじめへの対応についての三つです。家庭教育学級のプログラムは原則として年3回ですが、1回はこの中のテーマから選んで実施していただくというものです。今回、事例として報告されている玉川中学校の場合は、ネット依存のテーマを取り上げ、3回を通した連続的な学習プログラムとして実施されたものです。

### 世田谷区立玉川中学校 家庭教育学級 (平成26年度) 「中学生保護者のためのインターネットリテラシー」講座

平成26年度世田谷区立玉川中学校の家庭教育学級は、同校PTA家庭教育学級委員会が企画し、保護者向けのインターネットに関する3回の連続講座として実施されました。



〈世田谷区立玉川中学校 H26年度家庭教育学級 プログラム〉

		テーマ	講師	学習方法	受講者数
1	6月10日	中学生を取り巻くネットの世界 —その現状を知る—	ICT教育 専門家	講演	約60人
2	7月8日	中学生を取り巻くネットの世界—グループディスカッション—	ICT教育 専門家	グループで話し合い、ロールプレイ等	約30人
3	9月16日	子どものころを守れ！ ネットに“ハマる”子どもたちに親ができること	精神科医師	講演	約60人

#### ● 講座のねらい

『子供たちが安全にネットを使いこなせるまで、しっかりと見守ることのできる保護者になる』



子供たちには少しずつネット教育が始まっていますが、スマートフォンの普及やその現状に追いつけない状態です。また、保護者はネットを便利に使いこなしていても、ネットの安全教育を子供に十分にできていないと感じる方も多いようです。“子供の方が詳しいから”と本人に任せってしまうケースもあると聞きます。しかし子供のネット利用には、“大人の実生活の経験と知恵”が必要であると専門家は指摘しています。

《「平成26年度講座のご案内」より》

#### 第1回 「中学生を取り巻くネットの世界 —その現状を知る—」 山本啓史先生(東京都「心の東京革命推進協議会」『ファミリールール』事務局統括マネージャー)

入学・進学を機に、携帯電話を所持されたお子様も多いことと思いますが、近年ネットに関する犯罪や子供の被害が明らかに進んでいることを御存じでしょうか。子供たちを見守るためにも、ネットの正しい利用法と危機管理について理解していただきたく、インターネットリテラシー講座を開催いたします。苦手な方も分かりやすい基礎的なものでありながら、ネット世界の現状を幅広く知ること、より理解を深め、その問題点に迫ります。《第1回開催案内より》



#### 第2回 グループワークで保護者の不安や悩み、葛藤を共有する

第2回は、第1回の講師の助言・進行によるグループワークで、保護者同士の話し合いを中心に進めました。「上手に使える便利なネットの世界ですが、大なり小なり各家庭で抱えている、子供の利用のトラブル」や、「ルール作りのコツ」等についての情報交換は、「他の人、家庭の話聞いて参考になった」「高校生や大学生等の年長のお子さんの例も聞いてよかった」と好評で、話し合いは苦手という保護者も参加してみたら時間が足りなかったと思うほど充実した学習会になりました。講義だけでなく同じ立場の受講者同士が話をすることは、実践に結び付きやすい学習方法です。

#### 第3回 講義 「子どものころを守れ！—ネットに“ハマる”子どもたちに親ができること—」 墨岡孝先生(成城墨岡クリニック院長/精神科医)

先生は「人との同調を無理にし続けること(ライン…)、機械によるバーチャル世界が混入してくること(オンラインゲーム…)は、成長期の子供たちにとって大切な、健全な自我の形成をできなくしてしまう…」と指摘します。依存症の怖さを知り、予防法を学ぶとともに、このような身近にある問題点にも目を向けて、ネットが及ぼす心への影響について考えます。《第3回開催案内より》



✪ 家庭教育学級委員会の皆さんも中学生のお子さんを持つ現役の保護者です。皆さんはどんな悩みや葛藤を抱えているのか、座談会形式で皆さんにお話を伺いました

#### 携帯やスマートフォンをいつ持たせる？ どうやって安全に使わせる？

- ▶「持っていないと友達の話に入れない。みんな持っているのになぜダメなの？」と言われて、理由を答えられない。いつ持たせるか悩む。
- ▶最初はルールを作っていたが、徐々に崩れに…。ネットを始めると何時間もやっていると寝不足になっていると思う。
- ▶「勉強する時は部屋には持っていない」と約束をしたけれど、「音楽を聴くだけ」と言われると親は弱い…。

多くの家庭に同様な不安や悩み、葛藤があるようです。他の家庭ではどうしているかを参考にして、我が家のやり方を考えることができます。

特に、SNS やオンラインゲーム上での友達とのやりとりについて、疑問や戸惑いの声が上がりました。

- ▶ LINE の影響が大きい。学年や部活ごとにグループがあって、常にスマホを手を持ってチェックしている状態。親子で話をする時間は減り、叱るとケンカになる。
- ▶ LINE の着信音がすると気になってしかたない様子。ひっきりなしに受信するので落ち着けない。
- ▶ LINE でのやりとりは他愛のないもの。“そのやりとりは必要？楽しいの？”と疑問に思う。
- ▶ 敢えて PHS を持たせたが、祖母から入学祝いで音楽用の通信機器を買ってもらった。これがネットにつながりオンラインゲームもできるもので、LINE はやっていないが、ゲームの中で、実際の待ち合わせの約束をしたりしている。電話で話せば？と思うが、今の子供たちはメールでやりとりする。
- ▶ 最近はゲーム機でもネットに接続してやりとりできるので、学校の友人とゲーム上で会話している。
- ▶ ゲームが白熱すると「今、ボスと戦っているから離れられない！自分だけ抜けられない！」等と言って夕食や風呂が後回しになることも。

家庭での生活やコミュニケーションに大きく影響している様子や、今の子供たちの思考や行動が保護者には理解しにくく戸惑う様子が伺えます。


「うちの子は、“ネット依存”以前に“スマホ依存”では？」と心配する方もいました。

- ▶ 常にスマホを手を持っている。ネットを見ていなくても音楽を聴いていて、家にいる間はトイレと風呂以外はずっと持っている。触っていないのは塾に行っている間だけという感じ。
- ▶ 移動教室の2泊3日間は携帯電話なしで過ごした娘が、帰宅すると「3日間ケータイなしはつらかった！」と言って、すぐにチェックしていた。
- ▶ 親が使いこなすよりも早く機能を覚える。楽しくて仕方がないみたいで、やり始めるとずっとやっている。

保護者よりも機器を使いこなし、しかも手放せなくなる子供に、どう対応すればいいのかということも、保護者の大きな悩みです。

家庭でのルールや約束事、その守らせ方や注意の仕方はどうしてる？

- ▶ 「家族団らんの時は携帯は止めなさい」と言っているが、父親が使ってしまうのでダメになってしまう。
- ▶ 親も気を付けなくてはと思い、家事をするときはスマホは持ち歩かないようにしている。
- ▶ 『ネットやメールの危ない使い方』の例を挙げて、父親が教えている。
- ▶ ネットでのゲームや LINE は始めてしまうとなかなか止められないので、始める前にやるべきことをやるようにさせようと思う。
- ▶ 「部屋ではだめ。22時以降はダメ。」とルールを作った。
- ▶ スマホは持たせず、携帯電話。LINE はやらせずメールのみ許可している。
- ▶ LINE は受信のピカピカが気になって他のことができなくなるので、スマホを伏せて置いている。

【ファミリールール】 

子供たちをインターネットやゲームに関わるトラブルから守るためには、親子で話し合いながら家庭でルールをつくるのが大切です。東京都とこころの東京革命協会では「家庭でのルール作り」を各家庭で実践できるように、保護者がルール作りのコツを学ぶ「ファミリールール講座」を実施しています。専門講師を無料で派遣する出前講演会事業も実施しています。詳しくは、「ファミリールール」ホームページをご覧ください。  
<http://www.e-rule.jp/index.html>  
 (リーフレットや各種資料のダウンロードもできます。)

今回の講座を通して感じたことや、同世代の子を持つ保護者へのメッセージを。

- ▶ LINE 等で不要な会話をし続けたり、エンドレスのゲームをやり続けると、成長期に大切な“健全な自我の確立”ができなくなる。このことを親も子も考えなければいけない。ネット依存とまではいなくても、こういった関係が楽しい年代だからこそこんな使い方にハマりやすい…がしかしこれは間違った使い方だと伝えていきたい。
- ▶ 所持率が上がる中、持たせないという選択はさらに難しい。危機管理能力を高め、便利に使える“単なるツール”として自覚してほしい。
- ▶ ネットに関する教育は足りていない。大人も子供もまだ適正な使い方ができていない今の時代だからこそ、不用意な利用は人生のリスクだということを子供に教えるべき。



委員の皆さんのこうした疑問や悩みが今回の連続講座の企画につながりました。3回で延べ150人の保護者が受講したことは、多くの保護者の関心の高さの表れでしょう。

今や子供の日常生活に浸透している携帯電話、スマートフォン、オンラインゲーム。危険を知って正しく使い、生活を自分でコントロールできるようになることは自立へのステップです。そのためには、家庭での実践が大切です。現状についての学習や親同士の情報交換等を組み合わせた玉川中学校のプログラムは、こうした学習を進める際の参考になる事例です。